# 令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

全国学力・学習状況調査は、小学校第6学年と中学校第3学年を対象として平成19年度から実施されています。調査が開始後、網走市では、「網走市学力向上宣言」を策定し、市内小中学校が「オール網走」として授業改善に取り組んできた結果、平均正答率において、全国との差は年々縮まってきており、近年は一部の教科において全国平均を上回る状況が見られるようになっています。令和5年1月には、新たに「網走市学校教育推進プラン」を策定し、網走市の将来を担う子どもたちに、これからの時代に求められる資質・能力の育成を目指した教育活動を進めてまいります。

網走市教育委員会として、児童生徒一人一人が確かな学力を身に付けるための取組を充実させるため、網走市学力向上推進委員会とともに分析を行った市内小・中学校全体の調査結果について、今後の方策とともに公表いたします。

#### 1. 調査の概要

#### 1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習 状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校 における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのよ うな取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 3. 調査の対象・児童生徒数
  - 小学校第6学年 9校 (網走小、中央小、西小、呼人小、南小、潮見小、東小、白鳥台小、西が丘小) 実施人数 244名
  - 中学校第3学年 6校 (第一中、第二中、呼人中、第三中、第四中、第五中)実施人数 国語220名 / 数学221名 / 英語 222名中学校・英語「話すこと」調査は、文部科学省 CBT システムを活用したオンライン方式で実施

#### 4. 調査の内容

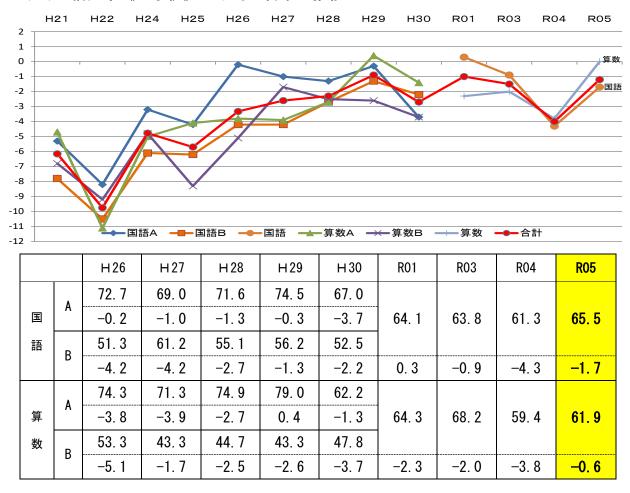
- ① 教科に関する調査(小学校:国語、算数 / 中学校:国語、数学、英語)
  - ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において 不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
  - ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容
  - ※上記を一体的に問う。
- ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
  - ・児童生徒に対する調査
  - ・学校に対する調査

#### 2. 結果の概要

#### (1) 平均正答率 • 平均正答数

		小学	单校		中学校	
教	科	国語	算数	国語	数学	英語
問題	数	14 問	16 問	15 問	15 問	17 問
平均	網走市	65. 5	61. 9	68. 1	48. 1	39. 6
正答率	北海道	65. 7	61.0	69. 4	49. 3	43. 9
(ポイント)	全 国	67. 2	62. 5	69. 7	51.0	45. 6
北海道	との差	<b>-0.2</b>	+0.9	-1.3	-1.2	<b>-4.</b> 3
全国と	:の差	-1.7	-0.6	-1.6	<b>-2.9</b>	<b>-6.0</b>
平 均	網走市	9. 2	9. 9	10. 2	7. 2	6. 7
正答数	北海道	9. 2	9.8	10. 4	7. 4	7. 5
(問)	全 国	9. 4	10.0	10.5	7. 6	7. 7
北海道と	の差(問)	±0	+0.1	<b>-0.2</b>	<b>-0.2</b>	-0.8
全国との	差(問)	<b>-0.2</b>	<b>-0.</b> 1	-0.3	-0.4	-1.0

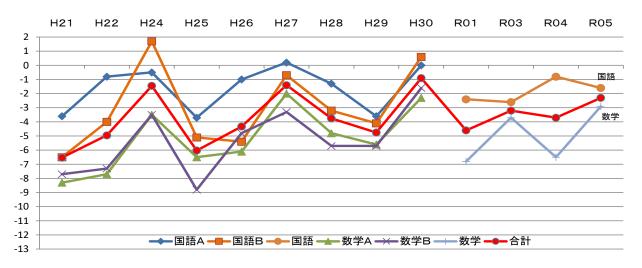
#### (2) 網走市《小学校》の平均正答率の推移



#### ※平均正答率~各教科それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率。

- ※調査問題は毎年異なり、平均正答率を年度間で比較できないため、全国平均を100とした時の網走市の正答率で比較。
- ※国語と算数は、平成31年度(令和元年度)から「知識」と「活用」を一体的に問う問題形式で実施。
- ※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、全国調査は実施されていない。

#### (4)網走市《中学校》の平均正答率の推移



		H26	H27	H28	H29	H30	R01	R03	R04	R05
	Α	78. 4	76. 0	74. 3	73. 8	76. 1				
国	A	-1.0	0. 2	-1.3	-3. 6	0. 0	70. 4	62. 0	68. 2	68. 1
語	В	45. 6	65. 1	63. 3	68. 1	61.8				
	, D	-5. 4	-0. 7	-3. 2	-4. 1	0. 6	-2. 4	-2. 6	-0.8	-1.6
	Α	61.3	62. 4	57. 4	59. 0	63. 8				
数	A	-6. 1	-2. 0	-4. 8	-5. 6	-2. 3	53. 0	53. 5	44. 9	48. 1
学	В	55	38. 3	38. 4	42. 4	45. 2				
	ט	-4. 8	-3. 3	-5. 7	-5. 7	-1. 7	-6. 8	-3. 7	-6. 5	-2. 9

※平均正答率~各教科それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率。

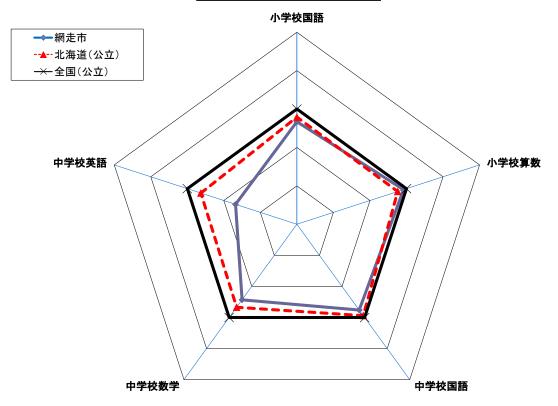
※調査問題は毎年異なり、平均正答率を年度間で比較できないため、全国平均を100とした時の網走市の正答率で比較。

<sup>※</sup>国語と算数は、平成31年度(令和元年度)から「知識」と「活用」を一体的に問う問題形式で実施。

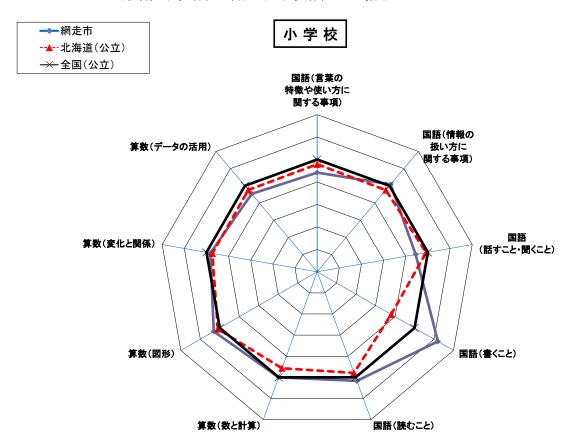
<sup>※</sup>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、全国調査は実施されていない。

#### (5) 各教科領域別の状況 (レーダーチャート)

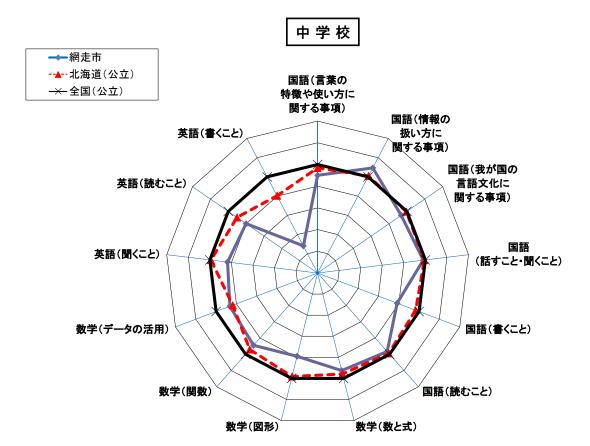
#### 全教科(小学校・中学校)



教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

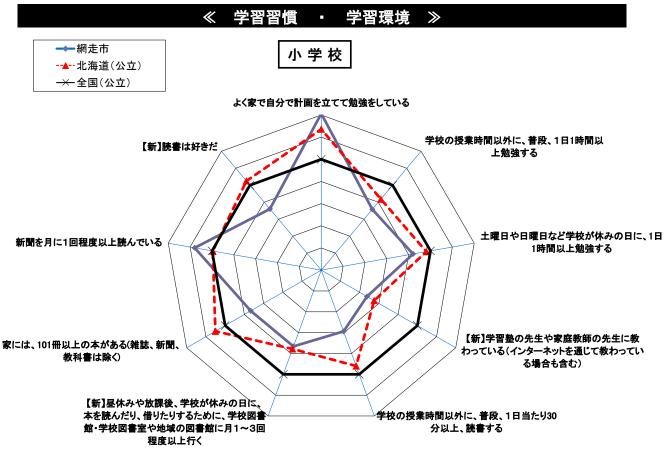


教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

## (6) 児童生徒質問紙調査の状況 (レーダーチャート)

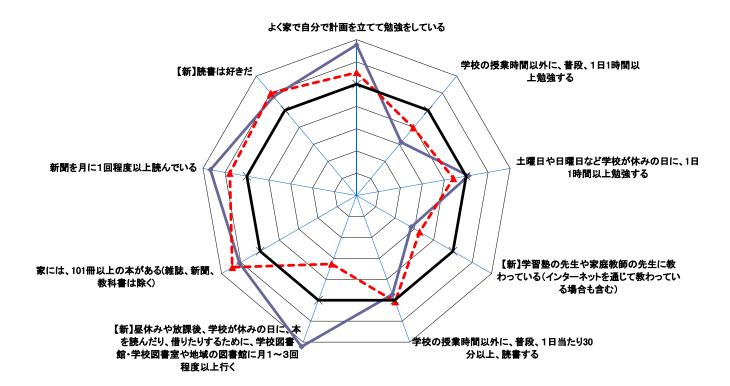


→網走市
--▲-・北海道(公立)

→ 全国(公立)

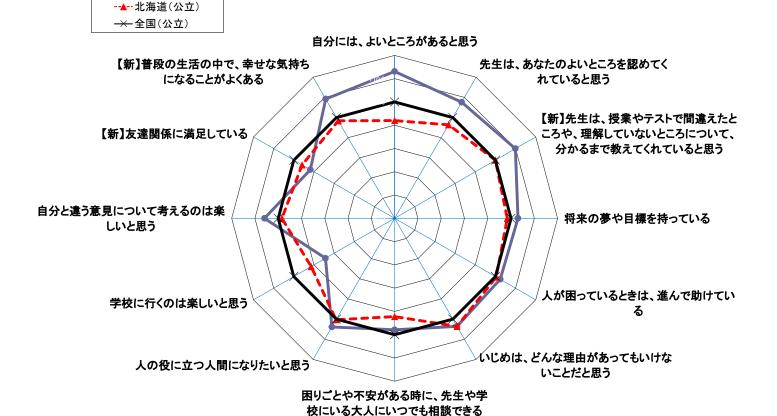
→ 網走市

#### 中学校



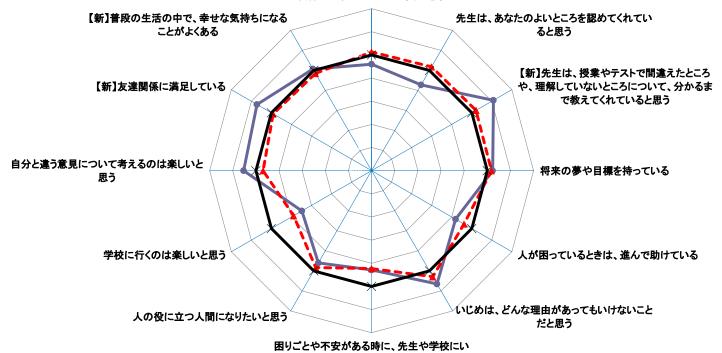


小 学 校



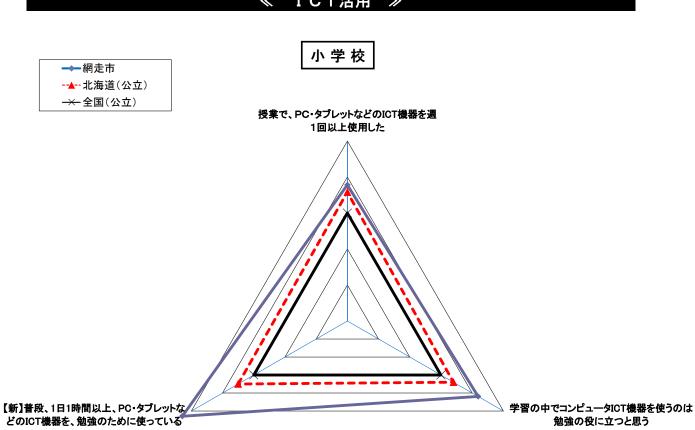
#### 中学校

#### 自分には、よいところがあると思う



#### ≪ ICT活用 ≫

る大人にいつでも相談できる

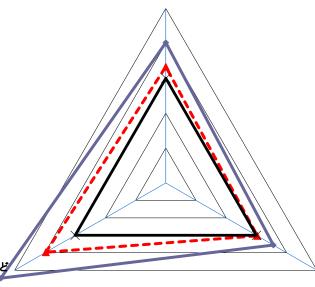


→ 網走市

**--▲-**·北海道(公立)

→ 全国(公立)

授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週1 回以上使用した



【新】普段、1日1時間以上、PC・タブレットなど のICT機器を、勉強のために使っている

学習の中でコンピュータICT機器を使うのは勉 強の役に立つと思う

# 3. 教科に関する調査

### 〇小学校 国語

	八华石	E A	対象問題数		平均正答率(%)	
:	分類	区分	(問)	網走市	北海道 (公立)	全国 (公立)
		全体	14	65. 0	66. 0	67. 2
		(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	67. 1	69. 7	71. 2
	知識及び 技能	(2) 情報の扱い方に関する事項	2	63. 9	61.8	63. 4
学習指導 要領の	(3) 我が国の言語文化に関する事項         思考力、       A 話すこと・聞くこと		0			
内容	思考力	A 話すこと・聞くこと	3	68. 6	72. 0	72. 6
	判断力、	B 書くこと	1	29. 9	23. 5	26. 7
	判断力、 表現力等 C 読むこと		3	72. 4	69. 7	71. 2
		知識・技能	7	66. 2	67. 4	68. 9
評価	5の観点	思考・判断・表現	7	64. 7	64. 1	65. 5
		主体的に学習に取り組む態度	0			
		選択式	9	72. 6	72. 5	73. 6
問		短答式	2	58. 4	60. 1	62. 7
		記述式	3	48.8	49. 2	51.1

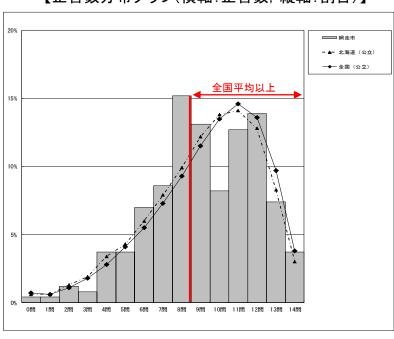
				学習	習指導到	要領の	内容												
			知	歳及び	支能		力、判1		****	価の勧	点	į.	問題形式	t		正答率(%)		無解答	率 (%)
			(1)	(2)	(3)	A	В	C	知識	思考	主 体	選択。	短答式	記述式	網	全国	全	網	全国
問題番号	問題の概要	出難の趣旨	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	• 技能	・判断・表現	的に学習に取り組む態度	式	式	式	走市	圉 (公立)	国との差	走市	鱼 (公立)
正答率が高かっ					上位	<u>т</u> З	問)	-											
2-	【資料1】と【資料2】に書かれている内容として 適切なものを選択する	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて 要約することができるかどうかをみる						3·4 9		0		0			94. 3	90.0	4. 3	1. 2	1. 2
1 三 (2) イ	付けて書き直したものとして適切なものを選択する ( <u>くらべて</u> )	送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使う ことができるかどうかをみる	5·6 9						0			0			93. 0	93. 1	-0. 1	0.0	1.0
1四	【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを 選択する	文章の種類とその特徴について理解しているか どうかをみる	5·6						0			0			81. 1	79.8	1. 3	3. 3	2.0
		正答率が低かった	問題	題 (	下位	<u>†</u> 3	問)												
1=	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と 解決方法を書く	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが 伝わるように書き表し方を工夫することが できるかどうかをみる					5·6			0				0	29. 9	26. 7	3, 2	11. 1	7. 1
3 Ξ	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の 空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかを みる	5·6 *						0			0			44. 7	57. 6	-12. 9	13. 1	9. 5
1 <del>=</del> (1) 7	【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って 書き直す (いがい)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で 正しく使うことができるかどうかをみる	5·6 I						0				0		48. 8	52. 8	-4. 0	7. 4	4.8

#### 【小学校国語の概要】

- ○正答率の全国平均との差は、−1. 7ポイント
- 〇正答率が全国平均を上回った 問題は14問中5問
- 〇学習指導要領の領域別(5領域から出題)では、3領域で全国を上回っている。
- 〇問題形式別では、「選択式」 「短答式」、「記述式」とも全国 を下回っている。
- ○平均正答数が9問(全国平均) 以上の割合

全国 ~ 66.7% 網走 ~ 59.0%

# 【正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)】



#### 〇小学校 算数

八华五	EA	対象問題数		平均正答率(%)	
分類	区分	(問)	貴教育委員会	北海道(公立)	全国 (公立)
	全体	16	61. 9	61. 0	62. 5
	A 数と計算	6	67. 3	64. 4	67. 3
	B 図形	4	49. 7	48. 7	48. 2
学習指導要領の領域	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	69. 6	69. 0	70. 9
	D データの活用	3	62. 4	63. 9	65. 5
	知識・技能	9	66. 4	65. 6	67. 2
評価の観点	思考・判断・表現	7	56. 1	55. 0	56. 5
	主体的に学習に取り組む態度	0			
ì	選択式	5	56. 0	56. 5	57. 7
	短答式	7	74. 7	72. 7	74. 7
	記述式	4	46. 9	46.0	47.3

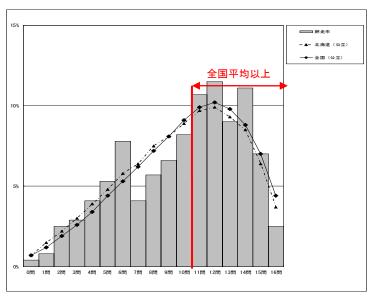
				学習指	導要領	の領域	ŧ	89	価の観	.点	R	問題形式	t	i	E答率(%	)	無解答	率(%)
問題番号	問題の概要	出題の趣音	A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	網走市	全国(公立)	全国との差	網走市	全国(公立)
	正答率が高かった				3 [	問)												
1 (1)	5脚の椅子を重ねたときの高さを求める	伴って変わる二つの数量について、表から変化の 特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めるこ とができるかどうかをみる				4 (1) 7 (7)		0				0		91. 4	93. 5	-2. 1	0.8	0.8
1 (2)	椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になって いないことについて、表の数を使って書く	伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる				5 (1) 1 (7)			0			0		90. 2	88. 5	1. 7	1. 6	1.0
2 (2)	テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名 前を書く	正方形の意味や性質について理解しているかどう かをみる		2 (1) 7 (4) 4 (1) 7 (7)				0				0		86. 9	87.2	-3. 0	2. 5	2. 9
		正答率が低かった問題	頁 (	下位	3 [	問)												
2 (3)	切って開いた三角形を正三角形にするために、 テーブを切るときのAの角の大きさを書く	正三角形の意味や性質について理解しているかど うかをみる		3(1) 7(7) 5(1) 7(4)				0				0		21.3	24. 9	-3. 6	4. 9	3. 7
2 (4)	テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積 の大小について分かることを選び、選んだわけを 書く	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係 を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数 を用いて記述できるかどうかをみる		5 (3) 4 (7)					0				0	29. 1	20.8	8. 3	5. 3	4. 0
4 (1)	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ	百分率で表された割合について理解しているかど うかをみる				5 (3) 7 (4)		0			0			44. 7	46.0	-1. 3	3. 3	2. 4

#### 【小学校算数の概要】

- 〇正答率の全国平均との差は、 -0.6ポイント。
- 〇正答率が全国平均を上回った 問題は16問中6問
- ○学習指導要領の領域別(4領域 から出題)では、1領域で全国 を上回った。
- 〇問題形式別では、「短答式」が 全国と同率で、「選択式」「記述 式」とも全国を下回っている。
- 〇平均正答数が11問(全国平均)以上の割合

全国 ~ 50.1% 網走 ~ 51.8%

#### 【正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)】



#### 〇中学校 国語

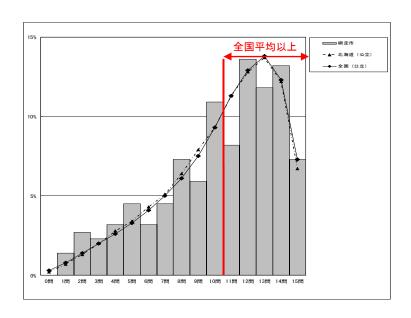
4	·類	区分	対象問題数		平均正答率(%)	
7	類	<b>△</b> ガ	(問)	網走市	北海道 (公立)	全国 (公立)
	全体       (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項       (2) 情報の扱い方に関する事項       (3) 我が国の言語文化に関する事項       出書すこと・聞くこと       書くこと       医 書くこと       C 読むこと		15	68. 1	69.4	69.8
		(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	64. 1	66.4	67.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	66. 4	63.7	63.4
学習指導 要領の		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	72. 3	74. 5	74.7
内容	思考力.	A 話すこと・聞くこと	3	81.4	81.8	82.2
	思考力、 判断力、 表現力等 B 書くこと	2	56. 4	62.1	63. 2	
	衣現刀寺	C 読むこと	4	62. 6	63.3	63.7
		知識・技能	7	68. 2	69. 1	69.4
評価の	の観点	思考・判断・表現	9	67. 5	69.2	69.7
		主体的に学習に取り組む態度	0			
		選択式	7	72. 9	73. 1	73. 1
問題	形式	短答式	4	63. 6	65.3	65.6
		主体的に学習に取り組む態度 選択式	4	64. 2	66. 9	68.0

				学習	指導事	要領の	内容												
			知訓	戦及び打	支能		力、判 表現力等		評	価の観	点	f	題形式	t	j	E答率(%	)	無解答	率(%)
			(1)	(2)	(3)	Α	В	С	知識	思考	主体	選択	短答式	記述式	網	北	全	網	全
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	技能	・判断・表現	:的に学習に取り組む態度	式	式	式	走市	海道(公立)	国との差	走市	国(公立)
	正答率が高かった問題(上位3問																		
2 -	「落胆する」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる	1 ウ						0			0			93. 6	91.8	1.8	0.0	0.2
	インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する	目的や場面に応じて質問する内容を検討する ことができるかどうかをみる				1 7				0		0			87. 7	87. 6	0. 1	0.0	0.1
1四	インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く	聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の 考えをまとめることができるかどうかをみる				1 I				0				0	80. 9	81. 7	-0.8	15. 5	10.8
		正答率が低かん	った	問題	(下	位 3	問)	•						•		•	•		
3 =	漢字を書く( <u>紅</u> し量って)	文脈に即して漢字を正しく書くことができる かどうかをみる	2 ウ						0				0		34. 5	41. 1	-6. 6	13. 2	10. 7
4 ≡	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのよう に工夫されているかについて、古典と比較して書 く	文章の構成や展開、表現の効果について、根 拠を明確にして考えることができるかどうか をみる						1 I		0				0	49. 5	50. 1	-0. 6	24. 1	20. 7
3 —	レポートの下書きの一部について、文の一部を直 す意図として適切なものを選択する	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確 かめて、文章を整えることができるかどうか をみる					1 I			0		0			50. 0	54. 1	-4. 1	0.0	0.6

#### 【中学校国語の概要】

- ○正答率の全国平均との差は、−1. 6ポイント。
- 〇正答率が全国平均を上回った 問題は15問中7問。
- 〇学習指導要領の領域別(6領域から出題)では、1領域で全国を上回っている。
- ○問題形式別では、「短答式」で 全国を上回り、「選択式」「記述 式」で全国を下回っている。
- ○平均正答数が11問(全国平均)以上の割合

全国 ~ 57.6% 網走 ~ 54.1%



#### 〇中学校 数学

分類	区分	対象問題数		平均正答率(%)	
万規	△ ガ	(問)	網走市	北海道 (公立)	全国 (公立)
	全体	15	48. 1	49.3	51.0
	A 数と式	5	60.7	61.7	63.0
学習指導要領の領域	B 図形	3	29. 7	32. 9	33. 2
子自拍等安限の限域	C 関数	4	48. 4	49. 7	51.2
	D データの活用	3	45. 2	44.5	48.5
	知識・技能	10	54. 3	54.4	55. 7
評価の観点	思考・判断・表現	5	35.8	39. 1	41.6
	主体的に学習に取り組む態度	0			
	選択式	4	43. 3	45.3	45.3
問題形式	短答式	6	61.6	60.4	62.6
	記述式	5	35.8	39. 1	41.6

			学習	指導到	要領の	領域	89	価の観	点	P.	問題形式	t	j	E答率(%	)	無解答	率(%)
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	A 数と式	B図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	網走市	北海道(公立)	全国との差	網走市	全国(公立)
	正答率が高かっ				ኔ 3 ቩ	引)											
6 (1)		問題場面における考察の対象を明確に捉えること ができるかどうかをみる	1 (1) 7 (9)				0				0		86. 4	88. 1	-1.7	3. 6	2. 4
2	12 (x/4+y/6) を計算する	数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる	2 (1) 7 (7)				0				0		82. 4	79. 7	2. 7	4. 5	4. 0
7 (1)	1961年~1975年の四分位範囲を求める	四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる				2(1) 7 (7)	0				0		61. 1	62. 5	-1.4	8. 1	5. 6
		正答率が低かった問	題	下亿	አ 3 ቩ	引)											
3	空間における平面が1つに決まる場合について、 正しい記述を選ぶ	空間における平面が同一直線上にない3点で決定 されることを理解しているかどうかをみる		1 (2) 7 (7)			0			0			26. 2	30. 6	-4.4	0.0	0.8
9 (1)		ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明す ることができるかどうかをみる		2 (1) イ (ア)				0				0	26. 2	31. 2	-5.0	33. 9	24. 7
7 (2)	「2006年~2020年の黄葉日は、1991年~20 05年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張す ることができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する	こ 刺蛇の理力を動物が主用を用いて影響する				2(1) 1 (7)		0				0	27. 1	31. 5	-4.4	29. 0	22. 8

#### 【正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)】

#### 【中学校数学の概要】

- ○正答率の全国平均との差は、 -2.9ポイント。
- 〇正答率が全国平均を上回った 問題は15問中2問
- 〇学習指導要領の領域別(4領域から出題)では、全ての領域が全国を下回っている。
- 〇問題形式別では、「短答式」が 全国を上回り、「選択式」「記述 式」ともに全国を下回ってい る。
- ○平均正答数が7問(全国平均) 以上の割合

全国 ~ 59.3% 網走 ~ 55.1%

# 

# 〇中学校 英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」領域

八坡	E A	対象問題数		平均正答率(%)	
分類	区分	(問)	貴教育委員会	北海道 (公立)	全国 (公立)
	全体	17	39. 6	43. 9	45.6
	(1) 聞くこと	6	53.6	58. 1	58. 4
	(2) 読むこと	6	46. 1	48. 7	51.2
学習指導要領の領域	(3) 話すこと [やり取り]	0			
	(4) 話すこと [発表]	0			
	(5) 書くこと	5	15.0	21. 1	23. 4
	知識・技能	9	44.0	49. 5	51.5
評価の観点	思考・判断・表現	8	34.6	37. 6	38.8
	主体的に学習に取り組む態度	0			
	選択式	12	49.8	53. 4	54.8
問題形式	短答式	3	19. 1	27. 4	30. 1
	記述式	2	8.8	11.8	13.5

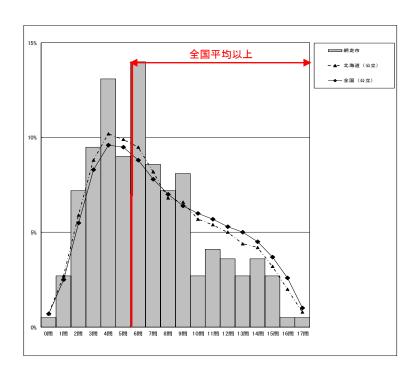
			学	習指	導要領	頁の領	域	評値	西の観	見点	問	題形	式	IE	答率(%	<b>5</b> )	無解答	率(%)
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	(1) 聞くこと	(2) 読むこと	③ 話すこと [やり取り]	(4) 話すこと [発表]	(5) 書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	答	記述式	網走市	北海道(公立)	全国との差	網走市	全国(公立)
	正答率が高かった問							•										
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	0					0			0			72. 1	77. 6	-5. 5	0.0	0.1
1 (2)	道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表 している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	0					0			0			64. 4	65. 9	-1.5	0.0	0.2
5 (2)	事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を 選択する	「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる		0				0			0			54. 1	61.5	-7. 4	0.0	0.3
		正答率が低かった問題(	下位	3 問	)													
1 0	学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを 1 つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、ま とまりのある文章を書くことができるかどうかをみる					1		0				0	3. 2	6.3	-3. 1	29. 7	21. 4
9 (1) (2)	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を 補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確 に書くことができるかどうかをみる					7	0				0		9.5	15. 6	-6. 1	13. 1	10.9
8 (2)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由 を書くことができるかどうかをみる					ņ		0				0	14. 4	17. 2	-2.8	37.8	29. 3

#### 【正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)】

#### 【聞くこと・読むこと・書くことの概要】

- ○正答率の全国平均との差は、 -6.0ポイント。
- 〇正答率が全国平均を上回った 問題は17問中1問。
- ○学習指導要領の領域別(3領域から出題)では、全領域で全国を下回っている。
- 〇問題形式別では、「選択式」「短 答式」「記述式」ともに全国を下 回っている。
- ○平均正答数が6問(全国平均) 以上の割合

全国 ~ 63.8%網走 ~ 58.3%



#### 〇中学校 英語「話すこと」領域

分類	区分	対象問題数	平均正答率(%)*						
万短	<b>区</b> 方	(問)	網走市	全国(国公私立)					
	全体	5	11.0	12.4					
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	0							
	(2) 読むこと	0							
	(3) 話すこと [やり取り]	4	12.1	14.5					
	(4) 話すこと [発表]	1	4. 2	4.2					
	(5) 書くこと	0							
	知識・技能	3	10.9	13.9					
評価の観点	思考・判断・表現	2	10.0	10. 1					
	主体的に学習に取り組む態度	0							
	選択式	0							
問題形式	短答式/口述式	3	10.9	13.9					
	記述式/口述式	2	10.0	10. 1					

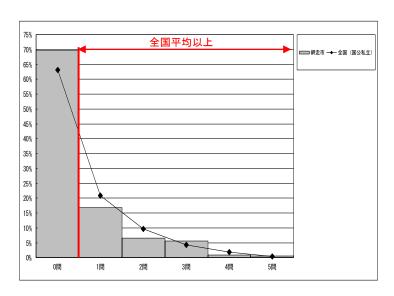
			学習指導要領の領域			評価の観点		見点	問題形式			正答率(%)*			無解答率(%)*			
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	(1) 聞くこと	(2) 読むこと	③ 話すこと [やり取り]	(4) 話すこと [発表]	(5) 書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式/口述式	記述式/口述式	網走市	全国(国公私立)	全国との差	網走市	全国(国公私立)
1 (1)	動物園でのやり取りの中で、留学生の質問を受け、 ゾウの誕生日を伝える	日付に関する基本的な表現を理解するととも に、その知識をやり取りの場面において活用 できる技能を身に付けているかどうかをみる			7			0				0		16. 4	19. 0	-2.6	13. 6	22. 7
	動物園でのやり取りの中で、留学生の質問を受け、 お土産としてふさわしいものとその理由を伝える	日常的な話題に関して聞いたことについて、 考えとその理由を述べ合うことができるかど うかをみる			ņ				0				0	15. 9	16. 1	-0.2	12. 6	17.8
	動物園でのやり取りの中で、留学生の質問を受け、 次の予定を伝える	未来表現(be going to)を理解するととも に、その知識をやり取りの場面において活用 できる技能を身に付けているかどうかをみる			ア			0				0		8. 9	9. 4	-0.5	12. 1	18. 1
	動物園でのやり取りの中で、カンガルーが食べるものについて留学生に質問する	疑問文の特徴を理解するとともに、その知識 をやり取りの場面において活用できる技能を 身に付けているかどうかをみる			ア			0				0		7. 5	13. 4	-5.9	10.3	19. 4
2	環境問題についてのプレゼンテーションを聞き、話 し手の意見に対する自分の考えとその理由を伝える					ゥ			0				0	4. 2	4. 2	± 0	12.6	18. 8

# 【話すことの概要】

- ○正答率の全国平均との差は、−1. 4ポイント。
- ○5問中1問は全国平均と同率 であり、4問は下回った。
- ○学習指導要領の領域別(2領域から出題)では、1領域が全国と同率であり、1領域が全国を下回っている。
- 〇問題形式別では、「短答式/ロ述式」「記述式/ロ述式」ともに 全国を下回っている。
- ○平均正答数が1問以上の割 合

全国 ~ 36.6% 網走 ~ 30.3%

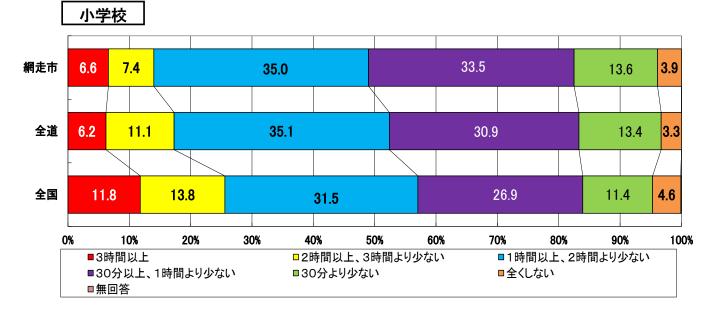
#### 【正答数分布グラフ(横軸:正答数,縦軸:割合)】



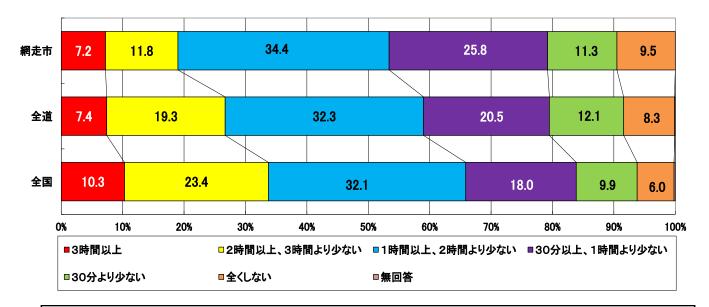
#### 4. 児童生徒質問紙調査

#### (1) 学習習慣の概要

〇「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」



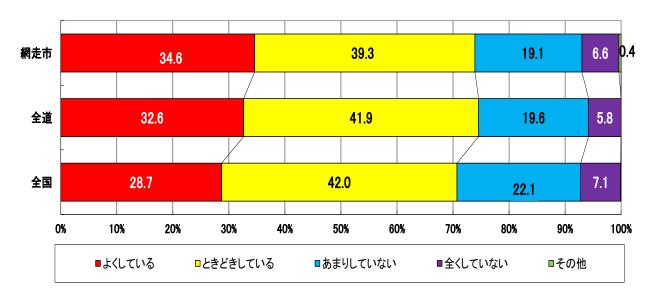
#### 中学校



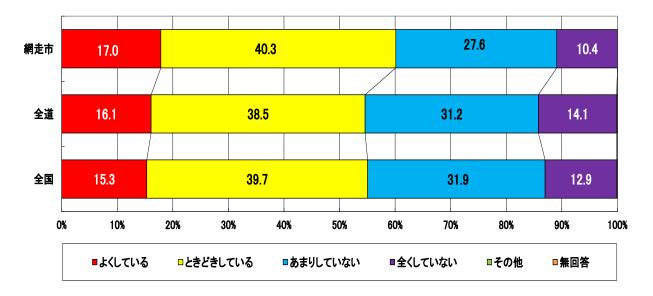
○「学校の授業時間以外に、普段、1日当たり1時間以上勉強している」は、 小学校、中学校ともに全国より低い傾向にある。小学校では、「全くしない」割合が全国より低く、改善傾向にある。

#### 〇「家で自分で計画を立てて勉強していますか」

#### 小学校



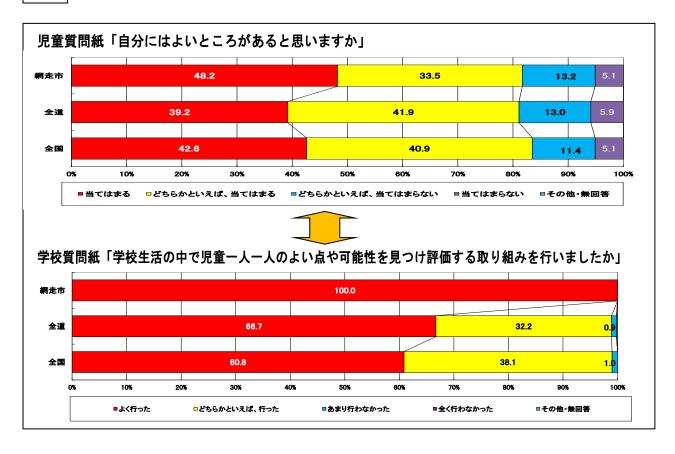
#### 中学校

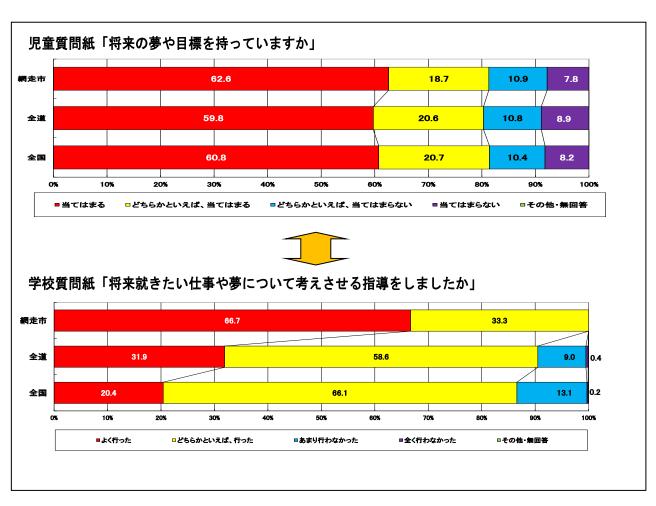


○「家で自分で計画を立てて勉強している」については、小学校、中学校と もに全国よりも高い傾向にあり、「全くしていない」についても、全国より 低い傾向にある。

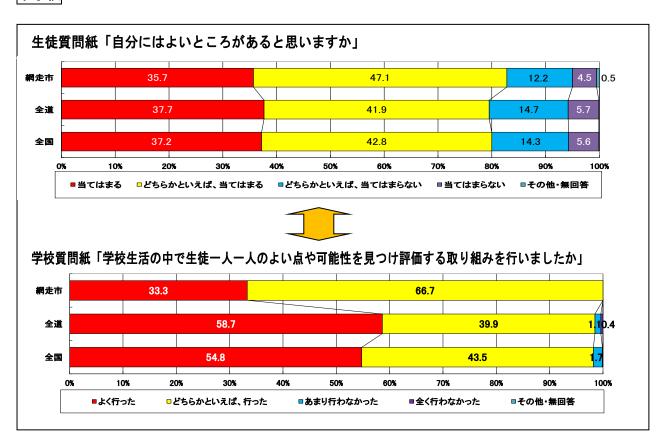
#### (2) 児童生徒質問紙と学校質問紙の比較

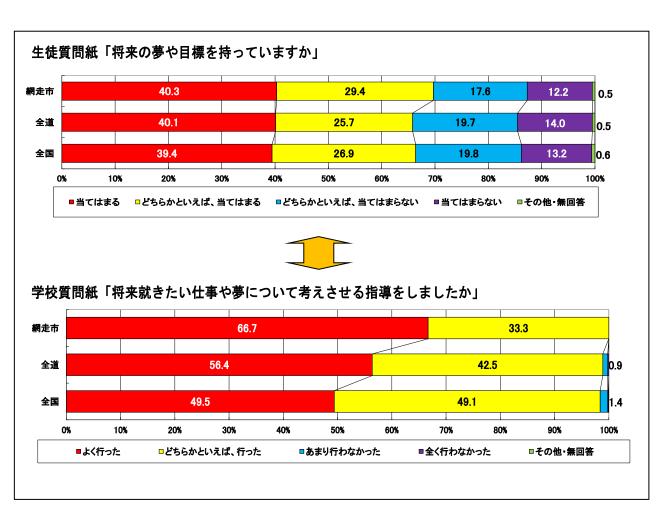
#### 小学校





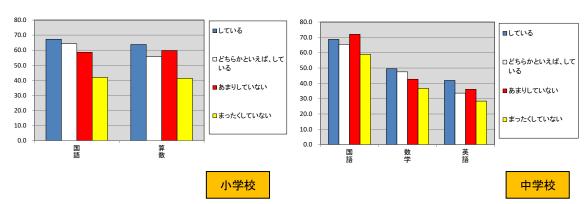
#### 中学校



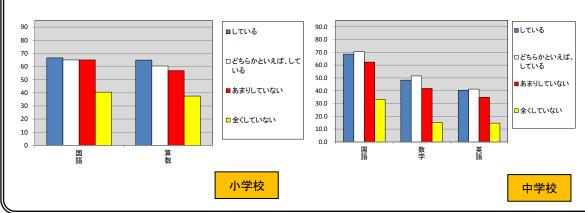


#### 5. 質問紙調査と平均正答率の相関

# (1)「朝食を毎日食べている」と正答率の相関 「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の方が「あまりしていない」「まったくしていない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。

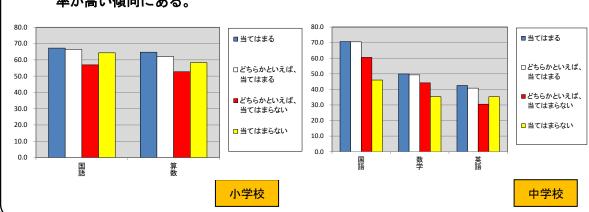


# (2)「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」と正答率の相関 「毎日、同じくらいの時刻に起きている」児童生徒の方が、「毎日、同じくらいの時 刻に起きていない」児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



#### (3)「自分には、よいところがあると思いますか」と正答率の相関

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒は、「どちらか といえばあてはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答 率が高い傾向にある。



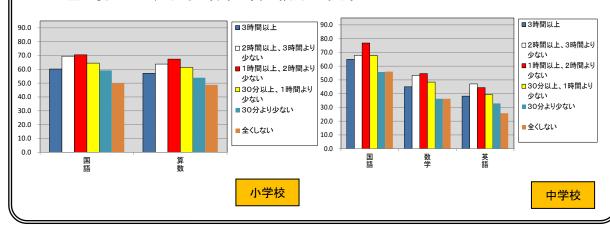
(5)「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む」と正 答率の相関

「よくしている」「ときどきしている」と回答した児童生徒は、「あまりしていない」「全 くしていない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



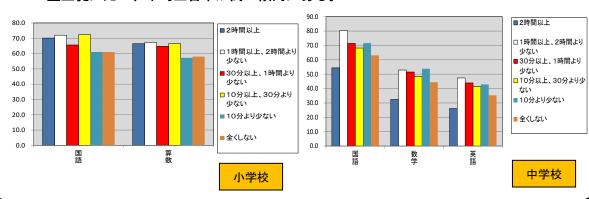
(6)「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、 勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、 インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」と正答率の相関

「1時間以上している」と回答した児童生徒は、「1時間よりも少ない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



(6)「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、 読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」と正 答率の相関

「30分以上している」と回答した児童生徒は、「30分よりも少ない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



#### 6. 調査結果における課題と改善のポイント

#### (1) 学校での組織的な取組〔▲改善を要する点 ◆改善のポイント〕

#### 【学習状況調査の結果から】

- ▲小中学校ともに、正答数が少ない児童生徒の割合が、全国より高い。正答数が0~2問の割合については、小学校が低く、中学校は、国語が高い傾向にある。
- ▲正答率が低い問題は、無解答率 が全国に比べ高い傾向にある。
- ▲経年比較で見ると、国語、算数・ 数学、英語ともに記述式で解答 する問題の正答率が低い傾向に ある。記述式は、無解答率が高 い傾向にある。
- ▲経年比較で見ると、小学校では 国語、中学校では、数学の正答 率が全国に比べ低い傾向があ る。

- ◆「知識・技能」の確実な定着を目指し、個々の学習の状況を 把握し、少人数指導、習熟度別学習などにより、きめ細かな 指導を行う。
- ◆個々の学習状況に応じて、発展的な問題にも積極的に取り 組ませる。
- ◆授業の中に、学習のめあてを示したり、まとめたりする学習 を位置付けるなど、「見通す」「振り返る」学習活動を確実に 行う。
- ◆授業の中に、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の取り組 みを行う。
- ◆国語科で身に付けた言語活動を、他の教科・領域の指導計画に位置付ける。
- ◆3Z(字数、時間、条件)を用いた記述の学習などを授業の中で設定するとともに、書いたことを交流したり、発表したりする場面を設定する。
- ◆授業や特別活動の中で、自分の考えを深めたり広げたりさせることを意図した対話的な活動を設定する。
- ◆授業では、教科の特性に応じて、1人1台端末を効果的に活用し、児童生徒に必要な資質・能力を身に付けさせる。

# 【児童生徒・学校質問紙調査から】 ▲授業時間以外に、1日当たり読書をする時間は改善の傾向が見られるが、10分以上読書をする割合は全国より短い。

- ◆朝読書など、全校一斉読書の時間を設定することにより、読書の機会を設ける。
- 、◆学校図書館の活用の仕方についての指導の充実を図る。
- ◆児童生徒が主体的に読書に携わり、読書の楽しさやすばら しさを体験させ、読書教育の環境を整える。

#### 【児童生徒質問紙調査から】

- ▲学校の授業時間以外に、普段1 日当たり、1時間以上勉強する 児童生徒の割合が全国より低い。
- ▲中学校では、「全くしない」と回答する割合が全国より高い傾向にある。
- ◆家庭での学習方法等について具体例を挙げながら教えることで、主体的に家庭学習に取り組めるようにする。
- ◆生活リズムチェックシートを活用するなど、1日の学習時間を 継続して記録し、意識化を図る
- ◆家庭学習の出し方について教職員で共通理解を図るとともに、家庭学習の方法等について具体的な例を挙げながら指導を行う。

#### (2) 家庭での取組

- 【児童生徒質問紙調査から】
- ▲学校の授業時間以外に、普段 1日当たり、1時間以上勉強 する児童生徒の割合を高め ていく必要がある。
- ▲ 1日当たり、「全く勉強をしない」と回答する割合をOにする必要がある。
- ▲授業時間以外に、1日当たり 30分以上読書をする児童 生徒を増やす必要がある。
- ▲学校のきまり(規則)を守っていると思う児童生徒の割合を高めていく必要がある。
- ▲「将来の夢や目標を持っている」児童生徒を増やす必要がある。

#### ①子どもの生活リズムを整えましょう

- ○生活リズムチェックシートを活用し、子どもが自ら生活を記録 する習慣化を図りましょう。
- 〇起床時刻、就寝時刻が不規則にならないようにしましょう。朝 ごはんをしっかり食べてましょう。(早寝早起き朝ごはん)
- ②家庭でのルールや目安を決め、しっかり守るよう子どもと約束をしましょう。
  - 〇家庭学習は、【小学校】学年×10分+10分 【中学校】学年×1時間+10分
    - を目標に取り組みましょう。
  - 〇テレビ、DVDの視聴時間、ゲームの時間を少なくしましょう。
  - ○家庭で読書をする時間を設けましょう。
  - ○携帯電話(スマートフォン)、SNS、メール、インターネットなどは、使用できる時間などのきまりを設けましょう。
- ③家の中に、勉強ができる環境を作りましょう。
  - ○新聞やニュースを見る、地図や地球儀を身近に準備するなど、社会に興味を持たせるような準備をしましょう。
- ④少し先の目標や出来事について話を聞く時間を作りましょう。 励ましや認めることを大切にしましょう。
- ⑥地域の行事へ参加させたり、図書館、社会教育施設を積極的 に活用させたり、網走のよさにふれる時間をつくりましょう。

#### ≪ 全国より高い傾向を示した項目(抜粋)≫

#### ■小 学 校■

- ・自分で計画を立てて勉強をしている。
- 自分には、よいところがあると思う。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の 学習につなげることができている。

#### ■中 学 校■

- 学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思う。
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。
- 授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている。
- ・将来の夢や目標を持っている。
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。

#### (3) 網走市教育委員会における学力向上の方策

この方策は、これまで網走市教育委員会が取り組んできたものをさらに推進・拡充させていく ものと、新たに取り組むものです。

#### 1 教職員の指導力を高めるために、教職員研修の充実を図ります

- (1) 北海道立教育研究所や網走地方教育研修センター等の受講促進、先進地視察研修、公開研究会への参加、オホーツク管内教育研究団体への加入の促進を図ります。
- (2) 市内すべての学校で公開研究会を実施するとともに、網走市学校教育研究実践事業により公開研究会の開催を支援します。
- (3) 教職員の授業力向上のため、北海道教育委員会の専門的教育職員による学校教育指導を複数回要請し、授業改善や研究協議の充実を図ります。
- (4) 「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校、連携校の取組を支援するとともに、 効果のある実践指定校の取組を普及させ、教職員の資質の向上を図ります
- (5) 「網走市学力向上フォーラム」の開催や、先進地への視察研修など、網走市学力向上 推進委員会の活動を支援するとともに、網走市教育委員会主催の研修会を開催し、教職 員の指導力向上を図ります。
- (6) 読書指導や家庭学習習慣の定着に成果を上げている学校の取組を網走市学力向上推進 委員会の中で共有し、各学校における具体的な取組の改善を図ります。

#### 2 子どもの学びを支える教育環境の整備を図ります

- (1) 学習内容をより分かりやすく伝えるためのICT機器(実物投影機、大型TV、タブレット端末等)を整備するとともに、ICT機器の活用に関わる研修会を開催します。
- (2) 学校図書館司書の配置や学校図書の整備など、読書環境の改善や、学校図書館機能の 充実を図ります。
- (3) 海外からの英語指導助手(ALT)を複数配置し、小学校段階からの英語教育、国際 理解教育の充実を図ります。

#### 3 子どもたちに自ら学ぶ意欲をはぐくみ、確かな学力の定着を図ります

- (1) 学習内容の定着を図るため、長期休業中や放課後の補充学習の充実、少人数指導や習熟度別学習、学習支援員の配置などによる、きめ細かな学習を推進します。
- (2) 子どもたち一人一人の理解を深めるため、学力状況を把握する標準学力検査や、学校での適応感を把握する検査の活用を促進します。
- (3) 学び方に関する「全校共通指導事項」の取組を推進し、学習規律の定着を図ります。
- (4) 家庭での学習習慣確立のために、学校・家庭・地域が連携し、家庭学習の習慣化やテレビ・ゲームの時間の見直しなど、「生活リズムチェックシート」の積極的な活用を図ります。
- (5) 小学校から中学校への円滑な接続、中1ギャップ未然防止のために、中学校校区を中心とした小中連携を推進します。
- (6) 東京農業大学との連携による、「長期休業中の学習サポート」「学習サポート事業(あばしり寺子屋)」を推進します。

#### 4 健やかな学びを支えるために、体力向上の取組を推進します

- (1) 心身ともに健康な子どもを育成するために、保護者、地域とともに、「早寝・早起き・朝ごはん」など望ましい生活習慣の定着、運動に慣れ親しむ機会を作るなど体力向上の 取組を推進します。
- (2) スポーツ合宿団体によるタグラグビー教室などのスポーツ教室を開催します。また、 教育長杯タグラグビー大会や、オホーツク網走マラソンなどの各種スポーツ大会への参 加促進を図ります。
- (3) 1時間の授業の中でできるだけ運動する時間を確保したり、互いに教え合う活動を取り入れたりするなど、楽しく達成感が味わえる体育の授業の充実を図ります。
- (4) 日本体育大学との連携し、体育授業改善のための研修会を実施します。

#### 5 特別支援教育の充実を図ります

- (1) 特別支援教育支援員などの人的支援の充実や関係機関との連携を図ります。
- (2) 教職員や保護者の特別支援に対する理解を深めるため、研修会の実施、教育相談体制の充実を図ります。

#### 6 思いやりを大切にし、豊かな心や地域を愛する心を育みます

- (1) 道徳教育推進校における教育講演会の開催、地域・保護者への積極的な道徳の時間の 公開など、道徳教育の充実を図ります。
- (2) 「網走市子ども会議」を開催し、子どもが主体的に取り組むいじめ防止の取組を推進するなど、心の教育の充実を図ります。
- (3) 地域に対する愛着や関心を高めるために、地域を素材とした総合的な学習の時間、ふるさと教育、食育などの充実を図ります。
- (4) 家読(うちどく)や朝読書の充実、読み聞かせなどによる良書との出会い、市立図書館による「読書ノート」の積極的な活用により読書の充実を図ります。

#### 7 地域、保護者との連携を図り、地域とともにある学校づくりを推進します

- (1) 学校と家庭、地域住民等が「地域でどのような子どもたちを育てるのか」、「何を実現しいくのか」という目標やビジョン共有しながら、特色ある学校づくりを進めていくために、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を推進します。
- (2) 地域、保護者とともにある学校を目指し、「オープンスクール」の実施や「網走市学校 支援地域本部事業」によるボランティアの活用など、地域、保護者との連携を図ります。
- (3) 小中学生と地域の高校、大学との交流を推進し、子どもたちの新たな興味や関心を引き出す様々な体験学習等の充実を図ります。
- (4) 心身ともに健やかな子どもを育成するために、網走市PTA連合会と連携し、教育講演会、研修会を開催します。
- (5) ネットトラブルの未然防止を図るために、学習会を開催したり、使用のきまりを作成したりするなど、学校と保護者が連携した取組を推進します。